

党県委から救援ボランティア出発

日本共産党愛知県委員会と同岐阜県委員会から、東日本大震災の救援ボランティアが相次いで出発しました。宮城県岩沼市の党仙南地区委員会の地域で活動します。

◇ 愛知県委員会は17日夜、河江明美准中央委員を責任者に10人が出発。

19日にはさつそく本村伸子県常任委員からの現地レポートが届き、イチゴ農家でのヘドロのかき出しや支援物資の仕分けなどに取り組む様子が報告されました。

◇ 岐阜県委員会は18日、小川理・岐阜地区委員長を班長に、田中・関ヶ原町議、波多野民青同盟県委員長ら5人が第1次として出発。トマト、キュウリ、キャベツなど80箱、コメ200kg、下着など4トトラックに詰め込みました。22日からは中濃地区からも参加します。

◇ 三重県委員会は、議員団や地区にも呼びかけ、津市議団は23日から、



鈴鹿市議団は6月3日から、南部地区は7月7日から、それぞれ4〜5日の日程で行く予定です。青年ボランティアも計画中。

◇ 静岡では県・地区から中央を通じ



て福島県いわき市などでボランティアが活動しています。静岡県委員会としては6月1日からの5日間でボランティアに行く予定で、また、伊豆地区や青年も6月初旬に計画しています。

震災調査で岩手県へ

佐々木憲昭衆院議員は18日、衆議院予算委員会の東日本大震災の調査で、岩手県に入りました。

県庁では、達増知事や県幹部から説明を受け、要望を聞きました。がれきなどの仮置き場として必要な三百haに対して確保できたのは百三十haで、国による災害廃棄物の広域調整をとの要望がありました。また、仮設住宅の必要数、着工数、申し込み数などの状況を聞きました。

地元で「万里の長城」と呼ばれた巨防波堤も、大津波にほとんど無

佐々木議員

力で、町が壊滅した宮古市田老漁協では、国の責任でがれき処理、漁船・漁港の再建を行うことが要望されました。ある幹部からは「最初は、国が負担するという話だったのに、結局、国・自治体・漁協がそれぞれ3分の1という話が来た。だまされたようなものだ」との抗議もありました。

漁港の集約化について佐々木議員に、「絶対反対だ。この港でなく別の港に行くことなど考えられない」と話す幹部もいました。

井上議員は福島へ

井上さとし参院議員は3、4日、福島県いわき市へ大門議員らと調査に入りました。

